

恋愛漫画家



リリカルマジカル  
スバール  
がんばる

Lyrical Magical SUGARU GANBARU Hentai-Mangaka magic girl lyrical Moehe Pua Mook This book is a thing for an adult

18  
For Adult

「もーエリオくんいい加減慣れなよ」

形のいい胸を振るわせながらスバルがエリオをからかう。

「私ともいつも一緒に入るのに、まだ慣れないもんね」  
笑いながらキャロが答える。

「まったくも〜その歳で恋人同士って羨ましすぎるよ」

今度はキャロに話を振るスバル。

「あれ、お二人もお付き合いをされてるんじゃないんですか？」

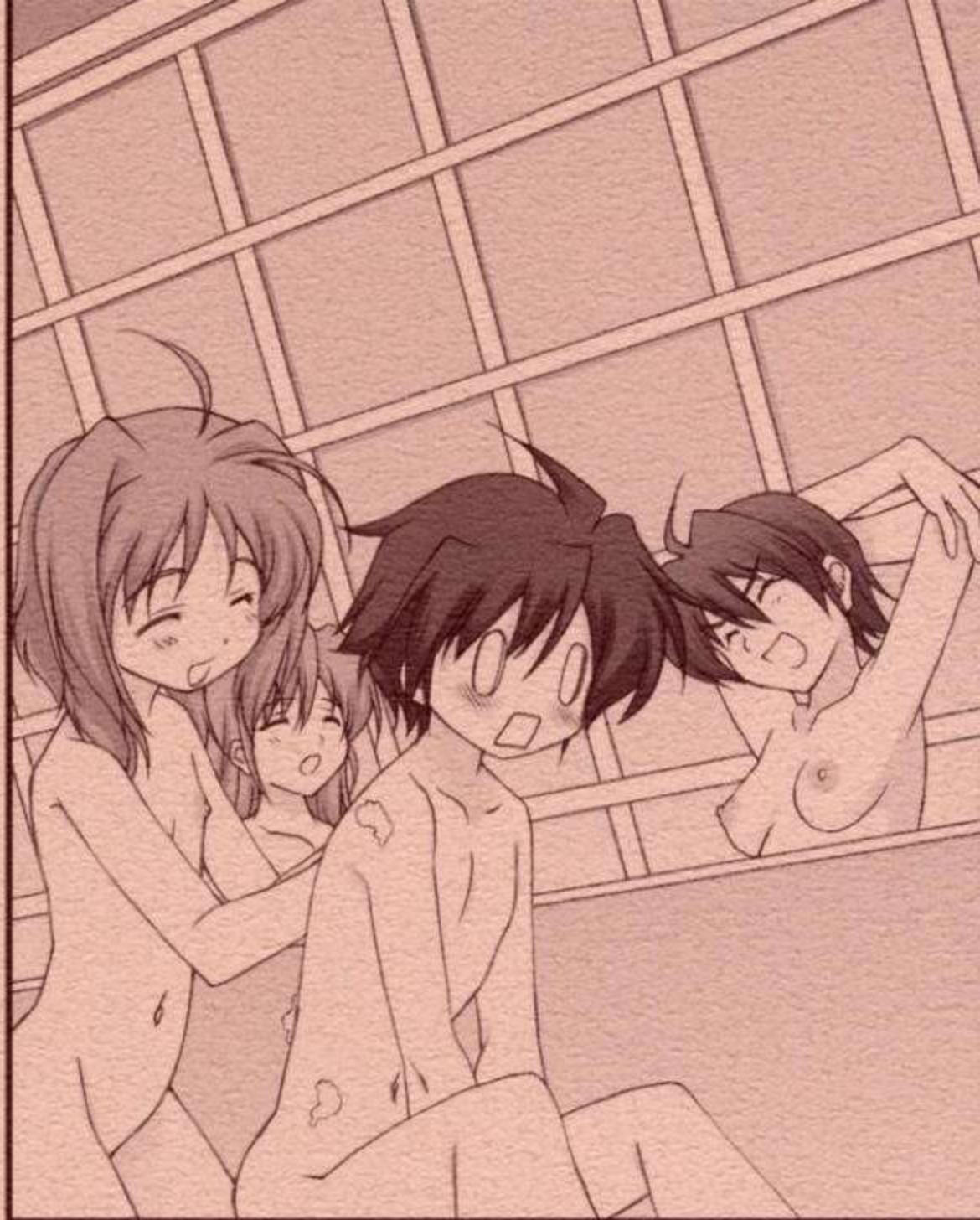
固まる二人。

「シャワー室とかお風呂で、その、愛し合われてるところを何度か…」

「あ、あの、それはね…」  
言い訳しようとするティアナを遮り、スバルが笑いながら答える。

「私達はね、多分恋人って意識して付き合っているけど、それでも大切な親友でパートナーで、その上で…愛し合ってるんだ」

そして、二人がこうなった切っ掛けを話し始めた。



私は入校当初  
周りの女の子に  
イタズラしまくり

セクハラスバルと  
呼ばれていた

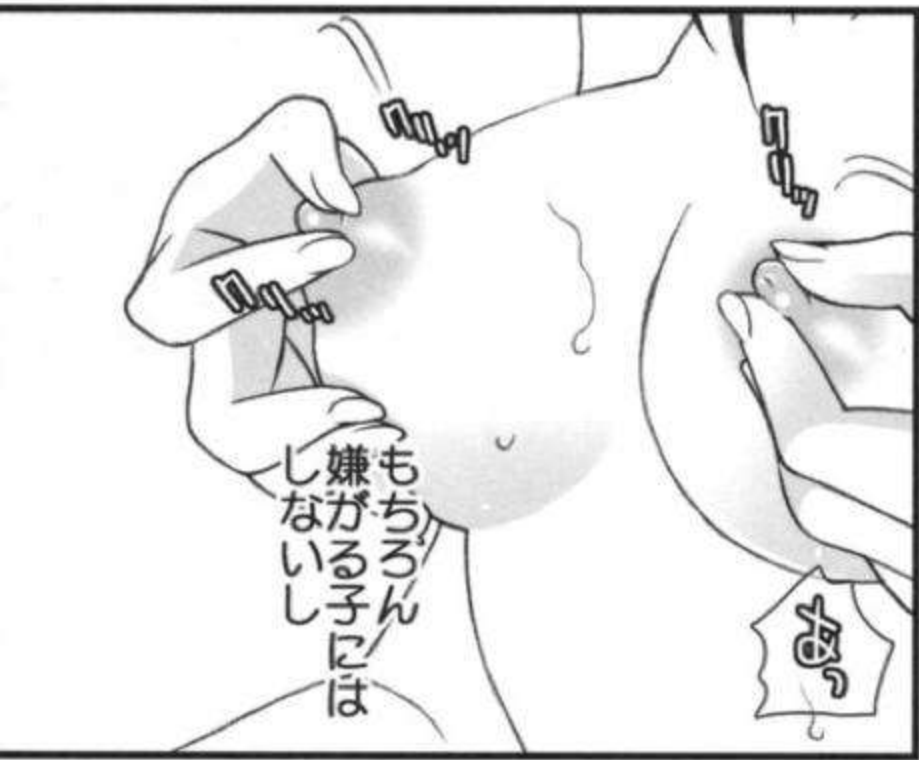
触っちゃおう



普段とのギャップに  
驚く人も多かったけど

慣れると  
そんなもんだと  
受け入れられてた

もちろん  
嫌がる子には  
しないし



むしろ  
スバルって  
えっ



あ：  
ランスターさん  
シャワー？



ティアが最初の頃  
なかなか心を  
開かなかつたのは

これが原因の一つ  
だったのかも  
しれない



それでも、少しずつ時間をかけて  
仲良く(とまではいかないけど)  
親しくなってきた

遂には  
休みの日にギン姉と一緒に遊んで  
一日を過ごす事が出来た

…そこまでは良かったんだけど  
帰ってきてから  
あたしは我慢が出来ずに  
ティアが寝ているのを見計らい  
自慰を始めてしまった

「ギン姉…大好き…」  
あたしが発情してしまった時  
いつも優しく激しく慰めてくれた  
ギン姉の愛撫を思い出しながら  
何度も達してしまった

「本当に激しいのね」  
いつの間にか彼女が起きていた!

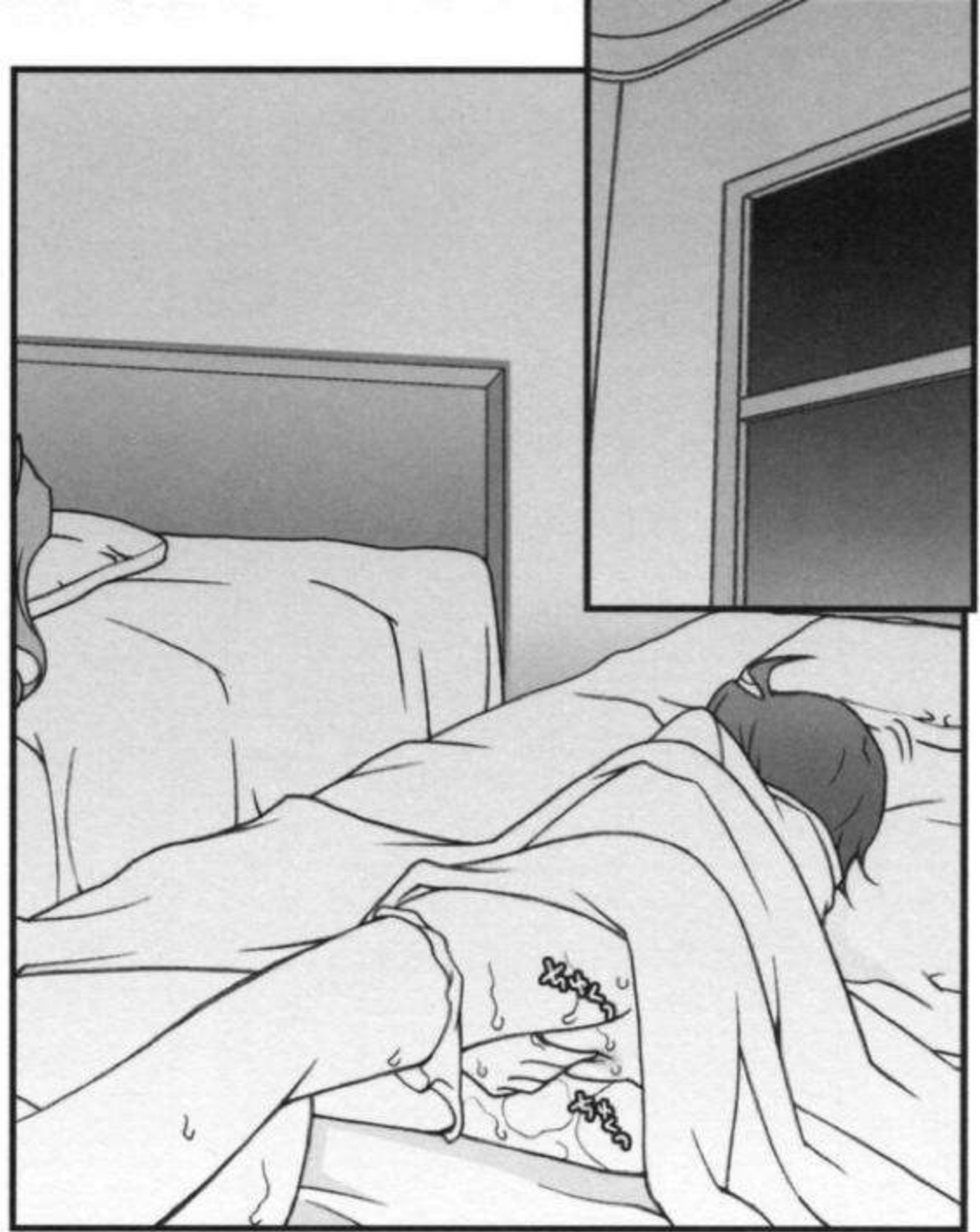
「う、ランスターさん、これは…」  
「知ってるわ、ギンガさんに聞いたから」

あたしとギン姉の体が普通じゃない事  
一度発情すると我慢が出来なくなる事  
発情を抑えるためにセクハラをして  
ガス抜きをしていた事  
家にいる時は自分が相手をしていた事  
今日会った事でスイッチが入ってしまう  
可能性が高い事  
嫌でなければ相手をしてやって欲しい事

「さっきずっとビデオを見てたの」  
それはギン姉とあたしが愛し合うシーン  
を撮ったものだったらしい

「それでま、何をやるかは分かったから」  
髪を結んで  
「…今だけ、あなたの望むとおりに」  
服を脱いで

「慰めてあげる」  
やれやれって感じではあるけれど  
2度目の笑顔を見せてくれた









たっぶり  
攻めてあげる



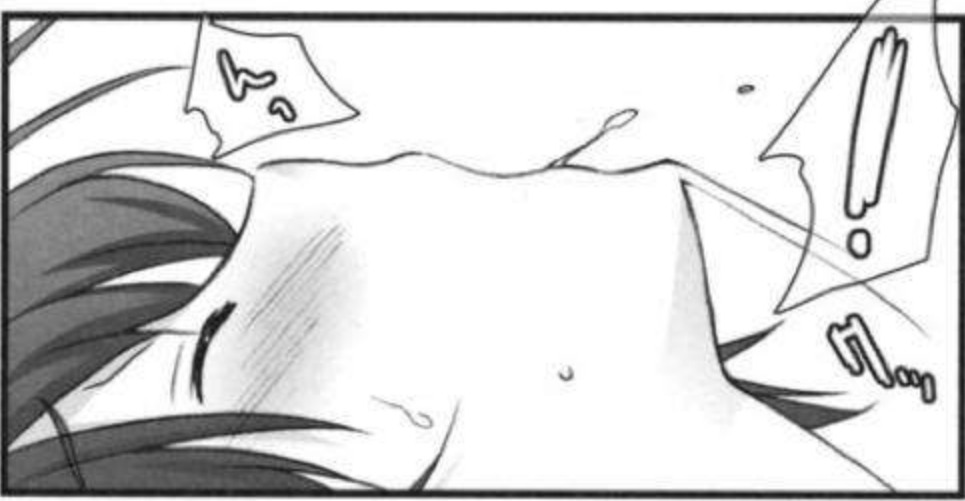
だから…



ディープリキス  
ぐらいは  
予習済みよ

そうなんだ…  
ランスターさん  
意外と  
負けず嫌い？

そうね  
負けるのは  
嫌いよ



それは…  
ランスターさんに  
してもらえて  
嬉しいからだよ

…そっか



凄いわね  
こんなに濡れる  
もんなんだ

ぬん

は

♡、♡











一旦話し終え、二人の様子を見てみた

エリオは、やっぱり顔を真っ赤にしてる  
普段と違うあたしを知って驚いたのだろうか

ま、あたし達もキャロとの関係を偶然見て  
しまった時は驚いたし、お相子だろう

そのキャロはというと、両手のコブシを  
握り締め、興味津々聞き入っている

「素敵ですね! ますますお二人の事  
大好きになりました」  
キラキラとした目で見られると、何だか  
ちょっと恥ずかしい

でもこんな小さな子が、セックスする事を  
知っちゃってるってのはビックリだ  
…けどあたしも目覚めたのはその頃か

「あくまであれは、あなたの不調を治す  
為だけだったんだからね」

これまた真っ赤になったティアが  
ツッコミを入れてくる。

「うん、もちろん分かってるよ」  
一旦ここは立てておく

でも…

「卒業の時…」  
私が言い出したら慌ててティアが遮った

「あれは単なる記念って言うか、あなたが  
お願いするからでしょ」

「でも、受け入れてくれて、すごく  
嬉しかったからさ…」

キャロの目が更に輝き「聞きたい」光線を  
放ってくる。

あたしは、ティアの手を取り  
再び語り始めた



陸士訓練校  
卒業の  
少し前

あーあ：  
私も年貢の  
納め時か

まあ別に  
惜しむような  
もんでもないけど

って  
ヨダレを  
垂らさないでよ

だってー  
可愛いよー  
綺麗だよー

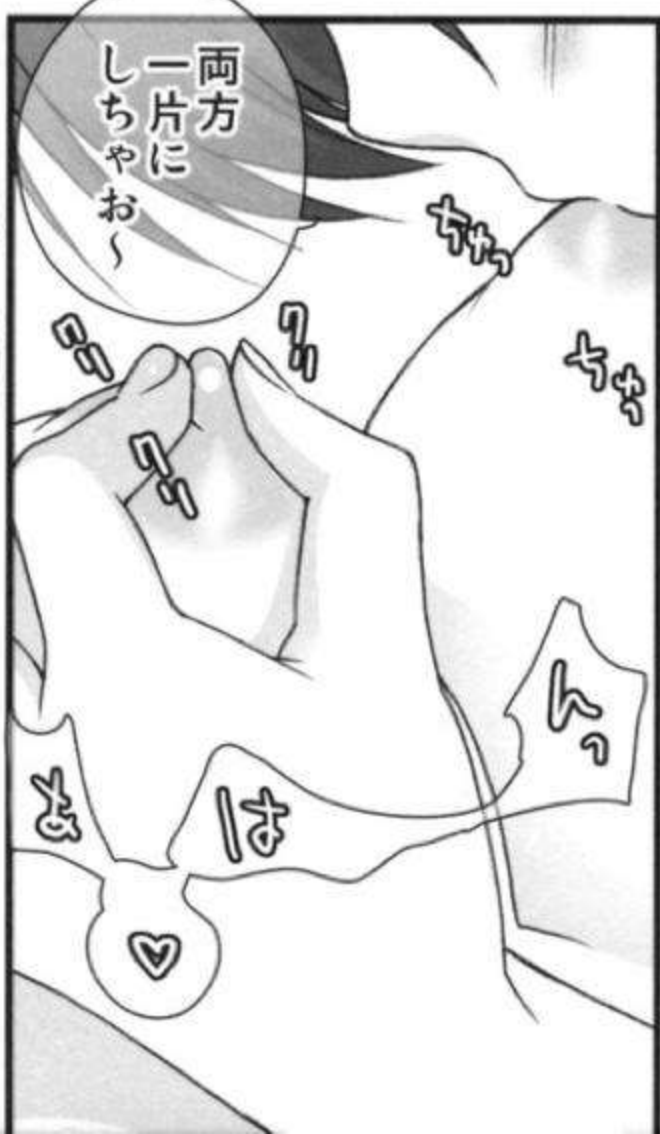
ティア  
大好き！

見た目だけ  
じゃないよ

性格とか  
ひっくるめて  
全部！

私だって…

あんたの事  
嫌いじゃないけど…





あたしがホントに  
ティアの処女を  
もらっても  
いいのとか

ティアの旦那さんに  
申し訳ないとか…



…ゴメン  
急に怖く  
なっちゃったかも



…ホントに急ね…  
一体何?



…全く  
何言ってるんだか



だから…  
あんたは  
気兼ねせず

私の中に…  
入ってくれば  
いいの

ほよ



私が!  
あんたに  
処女をあげるって  
決めたの!

あんたが  
言い出した事でも  
最終的に  
私が了承したの



う…

うん!

ほよ



ティア  
ありがとう…  
あたしも覚悟  
決めるね

ん  
あ



スバル：  
もう十分  
準備出来てるから

あ  
え

あ  
っ  
♡

ん  
ん  
ん  
ん  
ん

迷わないで  
一気に  
入ってきて！



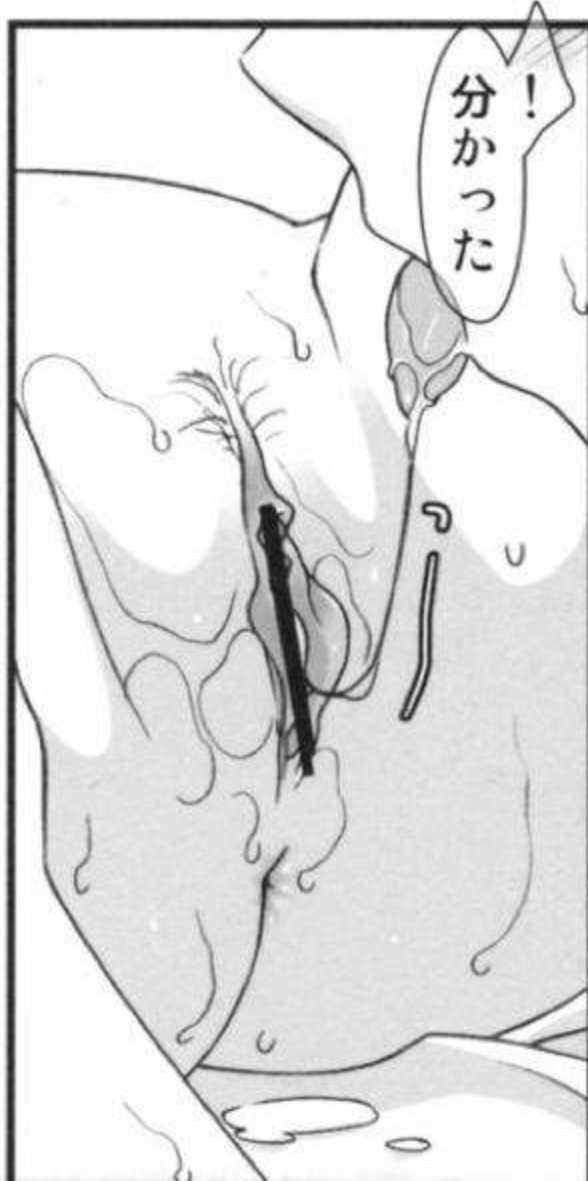
！！

んあっ…！！



ティアの中に…

入って…  
行くよ！



！  
分かった



あ…  
ティアの  
処女膜が…

切れて…  
血が…  
にじんで  
きちゃってる…

本当に…  
あたしが  
ティアの処女を  
奪っちゃったんだ…



ティア…



そ…  
想像以上の  
痛みだったわ



あう…  
だ…大丈夫？

あ…あたし…



えっ？  
何？



んあっ！







泣きたいのは  
私なのに  
何であんたが  
泣くのよ

バカね...



ティアア...  
ゴメンね...  
ごめんなさい...



こういう時は  
優しくキス  
しなさいよ...

うん...  
ありがとう  
ティアア

うん...  
ん...



大好き!  
大好きだよ!!

ありがとう  
ティアア...

あたし  
心から...  
ティアアの事  
想ってるよ

話し終えたスバル。  
顔を真っ赤にしている。  
他の3人も同じように全身を火照らせていた。

「すごく素敵なお話ですね、ドキドキしました」  
キャラコが目をキラキラさせてながら、エリオの手を取って  
ギョツと抱きしめている。

「まだまだ色んな事があったけどね」  
「ホント、スバルには色々手焼かされたもの」  
照れ隠しが、肩をすくめて愚痴るティアナ。

「もっとお二人の話、聞きたいです…けど、今は…」  
エリオだけでなく、スバルとティアナもドキッとするような  
大人びた表情を浮かべ、エリオを見遣るキャラコ。

「そ、だね、今度はキャラコとエリオの話も聞かせてね」  
そう言いながらティアナの手を取るスバル。

4人は満面の笑みを浮かべながら、それぞれ  
カップルに別れ、部屋に向かっていった。

ふとスバルは思った。  
(そういや、私たちのは見られちゃったのよね。  
だったら、キャラコたちのも見せてもらわなきゃ)

## 編集後記

END

読んでいただきましてありがとうございます！

DVDも無事全巻揃い、見まくってます。

ネタを考えるために該当箇所を見てたら、つい夢中になって  
続きから通して最後まで見ちゃったり(笑)

次の本は「ティアナがんばる」になると思います。  
語り手だけではなく、いっぱい可愛がられて  
ヘトヘトになったりする予定です！

さらにその次も考えてます。  
描きたくてウズウズしてますので、よかったら  
今後も手に取ってもらえると嬉しいです。

ではでは。  
次に向けて頑張ります！



制作  
恋愛漫画家

発行日  
2008年4月27日

印刷  
Power Print

連絡先  
hironasu@mud.biglobe.ne.jp

HP  
<http://www.renai-manga.com/>

無断転載・複製はお止めください



リカルマシカル スパルガンダ

恋愛漫画家 成年向



恋愛漫画家

リカルマシカル スパルがんばる

恋愛漫画家 成年向



リカルマシカル  
スパル  
がんばる

